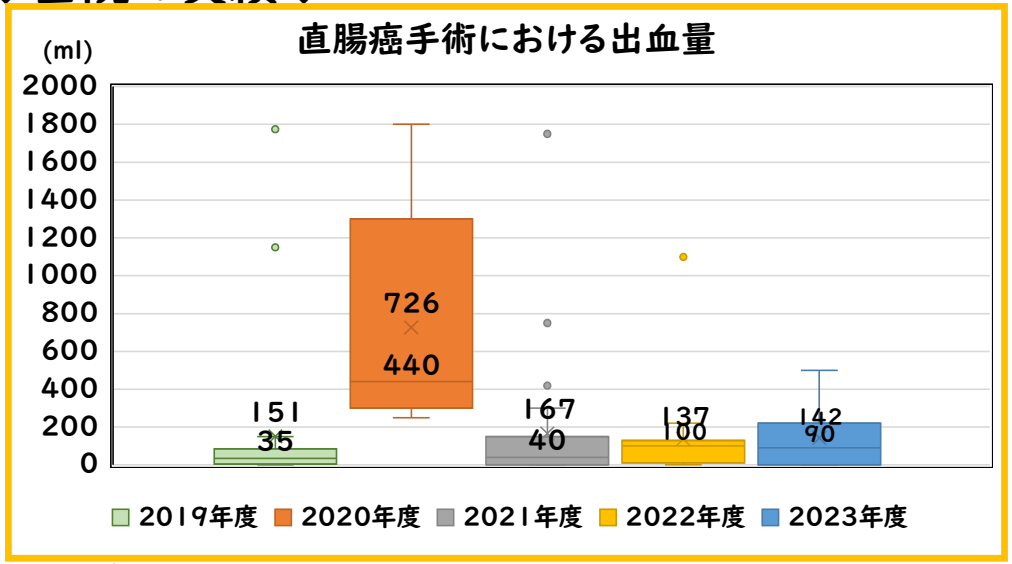
15 直腸癌手術における出血量

消化器外科

◆解説◆

癌手術の治療成績評価は手技的安全性、腫瘍学的安全性の観点により行われます。出血量は手技的安全性を評価する客観的かつ簡便で、全ての癌手術に共通する重要な項目の一つです。臨床指標の項目として、実際に当院において標準的な診療が行われているかを表現する指標と考えます。

◆当院の実績◆



※数値は、平均値と中央値を表示

◆定義◆

当院での直腸癌手術の一件当たりの出血量を年度毎に比較

◆自己点検評価◆

直腸癌に対する手術アプローチ法は、大きく以下の3つに分類されます。

①腹腔鏡手術 ②開腹手術 ③ロボット手術

腫瘍学的安全性を保ちつつ、低侵襲性アプローチを積極的に行っています。近年は、結腸癌・直腸癌に対してロボット手術を導入、また集学的治療を要する高度癌進行例、超高齢者、重篤な併存疾患を有する症例の増加傾向を認めています。ロボット手術の増加、より進行した症例では手術時間が延長しますが、術後の合併症を減らすために安全な手術を心掛けて行っており、出血量は減少傾向です。手術手技のさらなる定型化をはかり安全性を追求していきます。